

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	夏期海外研修シンガポール保健医療スタディツアー	
学部・研究科名	医学部	
実施期間	2016年8月21日～8月29日	
研修先(国・都市・施設名)	シンガポール・シンガポール総合病院	
参加学生数	： 17名	知の森基金からの支援者： 14名
プログラム概要	平成25年にシンガポール総合病院と信州大学医学部が締結した学術交流協定を基盤として、医学部保健学科学生が、シンガポールの保健・医療現場、教育施設を見学・体験することにより、アジア先進国の保健医療の現状を理解し、将来国際保健・医療を担うことのイメージを広げる新規プログラムである。医学部保健学科夏期海外研修プログラムの一つとして位置づけ開始したプログラムで、平成27年度は、アジア最大病床を誇るシンガポール総合病院での臨床見学研修、ほか地域病院や専門病院の見学、ナンヤン・ポリテクニクのシミュレーション教育などを体験するプログラムとなっている。本プログラムは、信州大学医学部保健学科全専攻、全学年(看護学、検査技術科学、作業療法学、理学療法学)学生が参加可能である。	

実施状況・成果

◆主な研修先

SGH: Singapore General Hospital、BVH: Bright Vision Hospital、KKH: KK(Kandang Kerbau) Children and Mothers Hospital、NYP: Nanyang Polytechnic、School of Health Science

◆参加人数

看護7名(3年生7名)、検査技術3名(3年生3名)、理学療法(2年生4名)、作業療法(2年生1名・3年生2名)、合計 17名

◆成果

SGHでは2日間の研修で、全員での院内見学の翌日は、各専攻に分かれて、見学が中心であるものの、個別対応的な研修対応により、学生は高い満足感を得た。高水準に定評のあるシンガポールの教育・研究および医療、高い水準のサービス提供への誇りとそれを支える専門職現任教育、大規模かつ最先端の医療水準を保持する院内システムに学生は大きな刺激を受けていた。

いわゆるアジア・イングリッシュに触れ、自らの英語力を試す機会や、多国籍の国民が多く存在する社会を体感し、国際的な感覚を養う機会ともなり、研修や自由行動を通して自身で行動するという自律性も経験し、大きな学びを得た。

学生の声①ー医学部・保健学科 学生

私は今まで海外旅行に行ったことはありませんでしたが、海外における医療の現状を見学するのは初めてでした。まず、英語を聞き取れるのかということにすごく不安を覚えました。しかし、研修先で教えてくださる方々は分からないことがあれば、すぐにstop!と言ってもらえれば大丈夫と言ってくださったのですごく助かりました。英語に関して言うならば、1、2年生で学習した英語の授業がすごく役立ちました。

シンガポールで一番大きいSGHの見学に行きました。SGHは1782ものベッドがあり信大病院の約3倍を超えるベッド数で、1400人を超える医師が勤務しています。期間が1週間と短く、ホームステイではないため海外に初めて行く人でも行きやすくなっているプログラムだと思います。海外の医療現場を見る機会もなかなかないと思うのでこの機会にぜひ少しでも海外に興味があるのであれば、行ってみたいと思います。

学生の声②ー医学部・保健学科 学生

研修では実際に治療を行う現場を見せてもらい作業療法士がどのような考えを持ち、何を行っているかを説明していただいたので座学とは違って非常に貴重な体験で勉強になりました。海外に行って一番驚いたことは、作業療法士という職種が日本よりはるかに知られていることでした。日本で作業療法士が理学療法士より認知度が低いことを海外で伝えると、非常におどろいていました。シンガポールでは作業療法士、理学療法士、言語聴覚士が同等にリハビリを担当していて、その中でも作業療法士は日常生活へのアプローチ、手指や上肢などの機能訓練をしていました。また、作業療法に火傷専用の分野があったことはすごく衝撃的でした。研修全体を通して、プログラムも充実していて非常に満足です。作業療法学専攻としては実習のある三年時にいくと今よりもっと知識もあり、日本との違いもより鮮明になるかとは思いますが、作業療法について学び始めの二年時に行くことも非常に価値ある良い機会だと思いました。

Singapore General Hospitalにて



NYP(Nanyang Polytechnic)のシミュレーション教育体験

